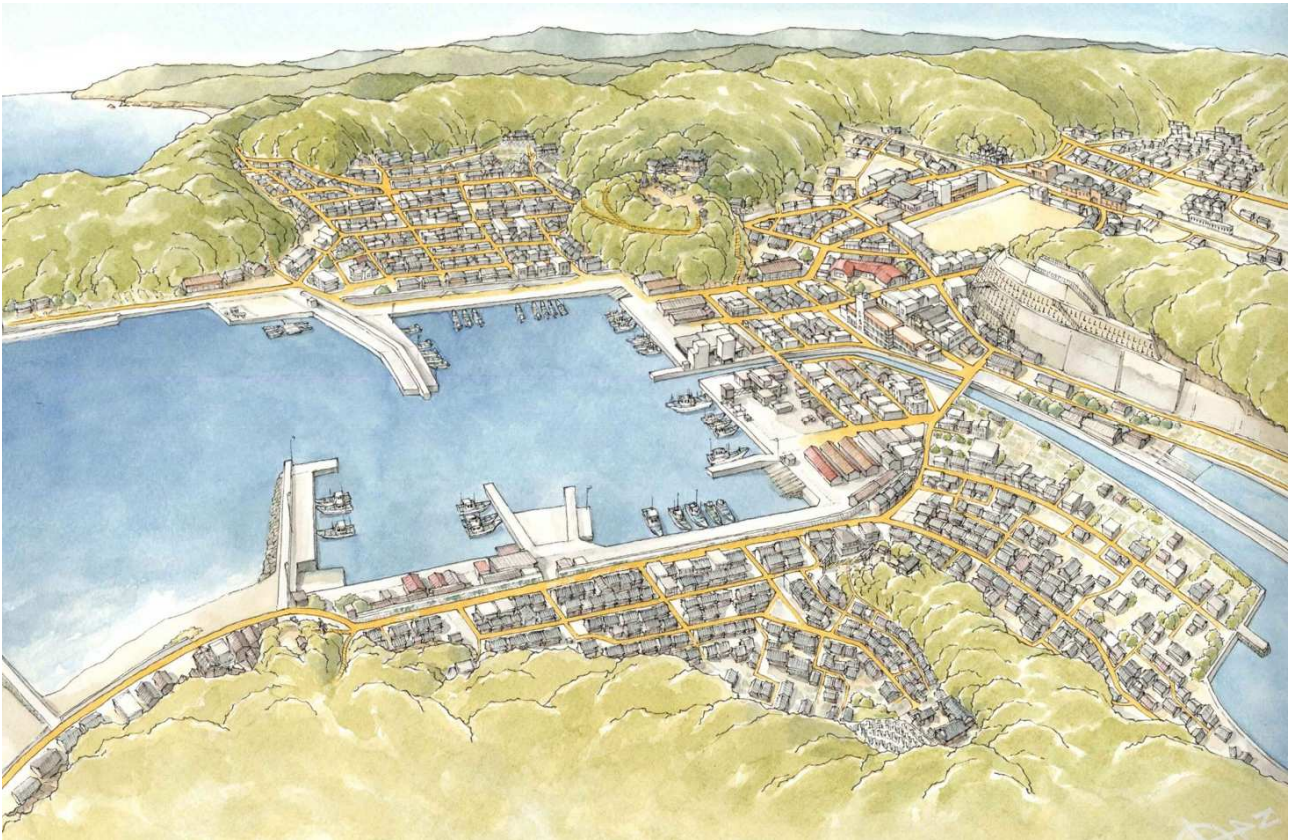


ごっつい由岐の未来づくり計画

～美波町由岐湾内地区 事前復興まちづくり計画素案（2016 年度版）～



NPO 法人日和佐まちおこし隊&デザイナー 小部博正氏作・提供

美波町由岐湾内3地区自主防災会連合会
ごっつい由岐の未来づくりプロジェクトチーム

目 次

第1部 序章

1. 事前復興まちづくり計画素案の策定にあたって
 1. 1 計画策定の趣旨
 1. 2 計画の役割
 1. 3 計画の構成
 1. 4 計画の主体と体制
 1. 5 計画の策定プロセス
 1. 6 計画の評価と見直し
2. 美波町由岐湾内地区の概況と課題
 2. 1 由岐湾内地区の概況
 2. 2 由岐湾内地区の社会リスク
 2. 3 由岐湾内地区の災害リスク
 2. 4 由岐湾内地区の地域継承
 2. 5 由岐湾内地区の地域幸福
 2. 6 由岐湾内地区の住民意向

第2部 基本構想

1. ごっつい由岐の未来像
 1. 1 基本理念
 1. 2 未来像
 1. 3 分野別の方針
 1. 4 土地利用の基本方針

第3部 基本計画

1. ごっつい由岐の未来を実現するための施策
分野別施策の体系図
 - (1) 自然・環境
 - (2) 人間関係
 - (3) 地域愛
 - (4) 暮らし
 - (5) 子育て・教育
 - (6) 心身健康

2. ごつつい由岐の未来を実現するための土地利用

分野・時系列土地利用の体系図

- (1) 1次避難期（災害から一時的に命を守る）
- (2) 2次避難期（命を守った後の避難生活）
- (3) 応急住宅期（新居確保までの仮住まい）
- (4) 住宅再建期（新居確保とまちの再建）

参考文献

- 1) 第2次美波町総合計画
- 2) 美波町防災まちづくり計画
- 3) 美波町事前復興まちづくり計画に向けた住民意向調査
- 4) 徳島県南海トラフ巨大地震被害想定（第一次）
- 5) 徳島県南海トラフ巨大地震被害想定（第二次）
- 6) 井若和久，上月康則，浜大吾郎，山中亮一：持続の危ぶまれる地域での住民主体による事前復興まちづくり計画の立案初動期の課題とその対策，地域安全学会論文集 No.22，pp.43-50，2014.
- 7) 井若和久：地域の発見「美波町」住民主体による事前復興まちづくり計画－美波町由岐湾内地区を対象に－，月刊土木技術，Vol.71，No.1，2016.
- 8) 浜大吾郎：住民主体の事前復興まちづくり－徳島県美波町－，月刊自治研，Vol.58，No.678，pp.46-50，2016.
- 9) 井若和久：“震災前過疎”を防止するための事前復興まちづくり－徳島県美波町由岐湾内地区での試み－，建築士，Vol.65，No.762，pp.22-24，2016.
- 10) 井若和久：徳島県における巨大地震・津波に対する事前復興まちづくり計画に関する実践的研究，徳島大学大学院博士論文，2014.
- 11) 渡曾健詞：住民の幸福度アンケートによる南海トラフ巨大地震の影響評価について，徳島大学大学院修士論文，2015.

第 1 部 序章

1. 事前復興まちづくり計画素案の策定にあたって

1. 1 計画策定の趣旨

美波町由岐湾内地区は、東由岐、西の地、西由岐の3集落から構成され、人口1,313人、世帯数558世帯（平成27年国勢調査）となっており、JR 由岐駅や美波町由岐庁舎が位置するなど、旧由岐町内の中心となる地域です。風光明媚な海と山に囲まれた中で、古くから漁村集落として海の幸に恵まれ、日頃からの良好な近所付き合いと年に1度の秋祭りや町民共楽運動会などで地域の絆を深めるなど、先人から変わらず幸せに暮らして来ました。

しかし当地区では、今後30年以内に、人口減少、少子高齢化、過疎化、主幹産業不振の進行といった〔社会リスク〕に加え、南海トラフの巨大地震・津波の発生といった〔自然災害リスク〕を抱えており、このまま何の対策も講じずにいると、近い将来に地域が維持できなくなってしまうかもしれません。

そこで私達は、先人から受け継いできたこの由岐湾内地区で幸せに住み続け、次世代に地域を継承するために、2012年1月から、由岐湾内の3地区の自主防災会が中心となって、まちのリスク（〔社会リスク〕と〔自然災害リスク〕）を受け止め、復興も含めたまちの将来像を共有するといった「まちづくりプラン」としての事前復興の取り組みを進めて来ました。

この度、2016年度現在までの取り組みの内、事前復興まちづくり計画に関わる部分を素案（2016年度版）としてまとめ、計画の実現に努めていきます。

1. 2 計画の役割

この美波町由岐湾内地区事前復興まちづくり計画は、美波町由岐湾内地区の最上位計画として、今後のまちづくりの方向性を示すものです。

ここでの「事前復興まちづくり計画」は、防災、土地利用、産業、医療、福祉、教育など、まちづくりの多様な要素を含むため、地域の総合計画や土地利用規制、防災計画といった法定計画の基礎となる総合的な地域別ビジョンとして位置づけられるべきと考えます。ただし、こうした計画体系がない現在では、地域住民による「地域ビジョンの共有としての計画」を有することが、まずはその一歩になり得ると考えています。

1. 3 計画の構成

本計画は、「基本構想」と「基本計画」により構成します。

■ 基本構想

基本構想は、まちづくりの理想像と基本となる考え方を明らかにしたものであり、ごっつい由岐の未来像等について書かれています。

■ 基本計画

基本計画は、まちづくりの理想像を実現するため、施策や土地利用を分野別や時系列に整理して体系的に示したものであり、それらについて書かれています。

1. 4 計画の主体と体制

■ 計画の主体

住民主体の計画を策定するため、現段階では由岐湾内3地区自主防災会連合会が中心となって計画の策定に取り組んでいます。

■ 計画の体制

2012年1月から由岐湾内3地区自主防災会連合会主催の「ごっつい由岐の未来づくりプロジェクト」として計画の策定に取り組んでいます。2014年4月からは、連合会内に3地区の20歳代～70歳代までの男女17名、事務局2名で構成された「ごっつい由岐の未来づくりプロジェクトチーム」を設置し、美波町消防防災課、徳島県南部総合県民局津波減災部、徳島大学、技術士、建築士、弁護士、復興まちづくり団体、専門家等の支援を得ながら計画策定に取り組みました。また各地域で住民への説明会および意見交換会も開催し、より多くの住民合意と、より良い意見を取り入れた計画策定に努めています。



写真1 由岐湾内3地区自主防災会連合会の設置に関する新聞記事



写真2 ごっつい由岐の未来づくりプロジェクトチーム会議

1. 5 計画の策定プロセス

ここでの「事前復興まちづくり計画」は、以下の計画の策定方法を措定しています。

- ① 住民からの発意
- ② 地域の骨格，魅力や課題等の現状整理
- ③ 地域で継承すべきものの抽出と共有化（この時，未成年の意見も尊重する）
- ④ 災害と地域継承の歴史の整理
- ⑤ 地域継承に及ぼす次の災害の影響評価
- ⑥ 地域継承のための方策立案

1. 6 計画の見直しと評価

本計画は、PDCA サイクルに沿って、毎年度、計画の評価と見直しを継続的行います。

具体的には、由岐湾内3地区自主防災会連合会主催の勉強会、ワークショップ、住民説明会・意見交換会、イベント等で、その都度計画の関連部分の見直しや評価を行います。

また、年度末にその年度全体の評価と見直しの結果を整理した計画素案（〇〇年度版）を策定し、翌年度初めの由岐湾内3地区自主防災会連合会総会および役員会で承認を得るものとします。



図1 PDCA サイクルの継続

2. 美波町由岐湾内地区の概況と課題

2. 1 由岐湾内地区の概況

美波町は徳島県の南東部に位置し、2007年に日和佐町と由岐町が合併して誕生した総面積140.85km²、人口7,092人（平成27年国勢調査）の町です。海岸部はアカウミガメの産卵地で日本の渚百選の大浜海岸等を有した風光明媚なリアス式海岸です。産業は古くから漁業が中心で自然豊かな海と共に生きてきた町です。

由岐湾内地区は、JR 由岐駅や美波町由岐庁舎が位置するなど、旧由岐町の中心部に位置し、海と山に囲まれた漁村集落です。人口1,313人、世帯数558世帯（平成27年国勢調査）で、古くから漁業者の多い東由岐、西由岐地区と地区内外からの移住者の多い西の地地区の3集落から構成されています。

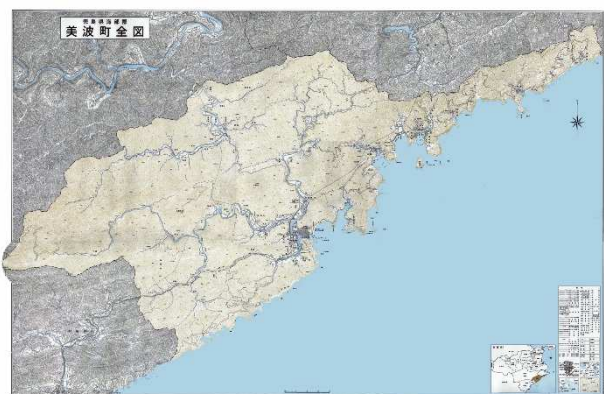


図2 美波町の地図



写真3 美波町由岐湾内地区



写真4 アワビ、トコブシ



写真5 由岐伊勢エビまつり

2. 2 由岐湾内地区の社会リスク

(1) 人口減少、少子高齢化、過疎化

由岐湾内地区は、2040年には、人口649人、年少人口60人、生産年齢人口344人、老年人口344人（高齢化率53%）となると推計されており、2010年を基準とすると30年間で人口は42%減少し、高齢化率は2%上昇します。

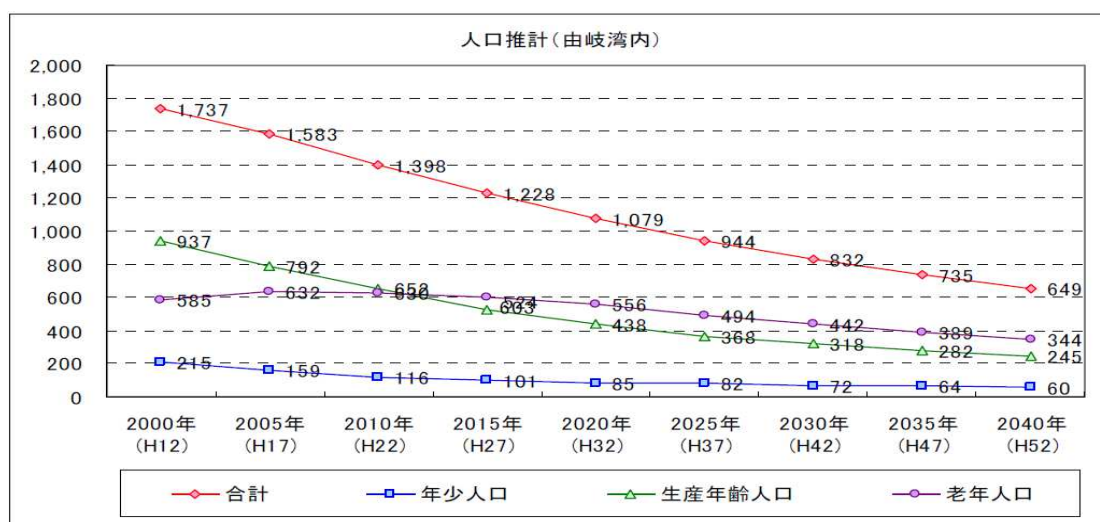


図3 由岐湾内地区の人口推計

(2) 主産産業の不振

由岐湾内地区の主幹産業である漁業は、全盛期と比べ、漁獲量は67%減少し、漁獲金額は76%減少している。漁業資源の枯渇、後継者不足の課題を抱える中、「美波の海の恵み研究会」では海藻養殖の試験を行い、主幹産業の立て直しに取り組んでいます。

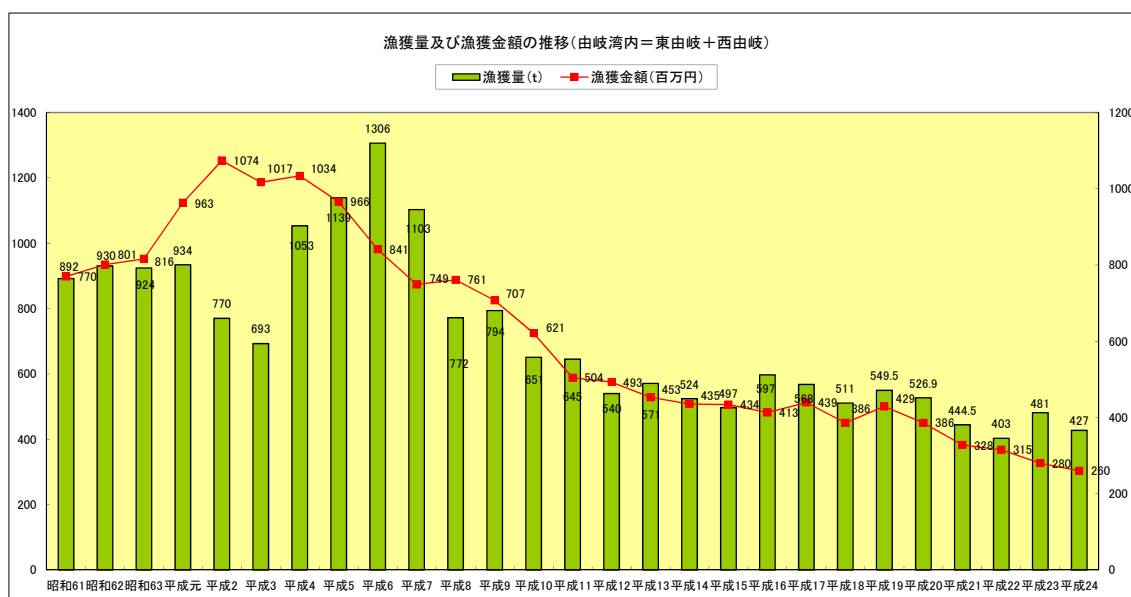


図4 由岐湾内地区の漁獲量及び漁獲金額の推移

2. 3 由岐湾内地区の災害リスク

(1) 過去の南海地震・津波

由岐湾内地区は、過去に繰り返す南海地震・津波によって破壊と再生を繰り返して来た地域です。

1361年の南海地震の被災記録は『太平記』にも記されており、これは徳島県では最古の南海地震の被災記録となっています。またその死者を供養するために建立されたと思われる東由岐地区にある『康暦碑』は、現存する日本最古の津波碑とも言われています。

1854年の安政南海地震では、最大約7～8mの津波に襲われ、地区内の全域が津波で浸水しました。死者16人、流失家屋430戸の被害が発生しました。

1946年の昭和南海地震では、最大約4mの津波に襲われ、死者8人、流失家屋430戸の被害が発生し、その痕跡は旧家や街路の石碑にも残されており、体験談は住民の中で語り継がれています。

表1 由岐湾内地区の過去の南海地震・津波の被害

年	地震名	人的被害	物的被害	津波高
1361	正平	流死60人余	流失家屋1,700戸	—
1605	慶長	流死16人		—
1707	宝永	溺死多し	亡所	約6～7m
1854	安政南海	流死16人	流失家屋430戸	約7～8m
1946	昭和南海	死者8人	流家7戸	約4m



写真6 日本最古の津波碑『康暦碑』



写真7 昭和南海地震の被災の様子
(出典：『気象庁地震津波監視課所蔵』)



図 5 1854 年安政南海地震の津波浸水範囲

(下図出典：『海部郡宋喰浦同郡イザリ浦迄略絵図分間』文化 4 年（1807 年）岡崎三蔵作（徳島県立博物館蔵））

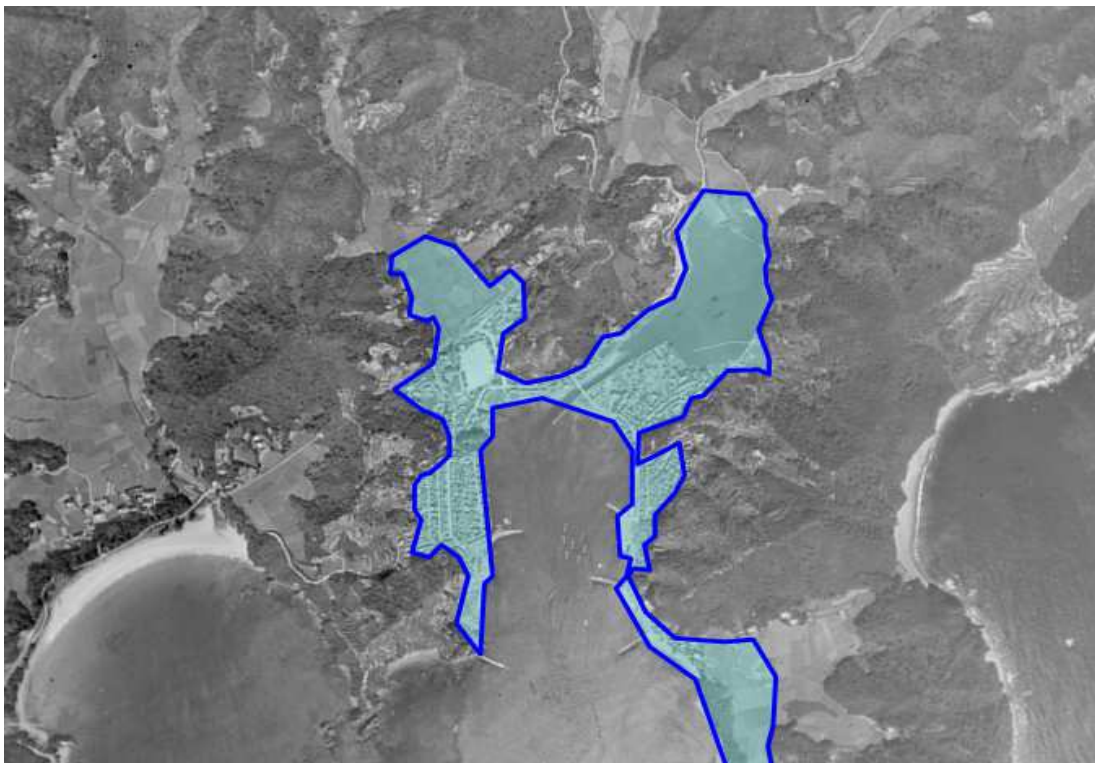


図 6 1946 年昭和南海地震の津波浸水範囲

(下図出典：『米軍空撮写真』昭和 22 年（1947 年）（国土地理院））

(2) 南海トラフの巨大地震・津波の被害想定

徳島県によると、想定される最大クラスの南海トラフ巨大地震（ $M_w 9.0$ ）が発生した場合、美波町では、最大震度 6 強～7 の揺れに見舞われ、沿岸部では液状化の危険度も極めて高く、津波影響開始時間は早い所で 10 分（津波高±20cm）、最大津波水位は 20.9m と想定されています。また、町全体での死者数は 2,400 人（町全体の約 31%）、全壊棟数は 3,300 棟（町全体の約 81%）、避難者数は最大地震発生 1 週間後に 4,800 人（町全体の約 63%）と想定されています。

由岐湾内地区では、最大震度 7、液状化の危険度は極めて高い、津波影響開始時間 12 分、最大津波水位 12.3m（由岐漁港口、地震発生 27 分後）、浸水区域内建物比率 99%と想定されています。

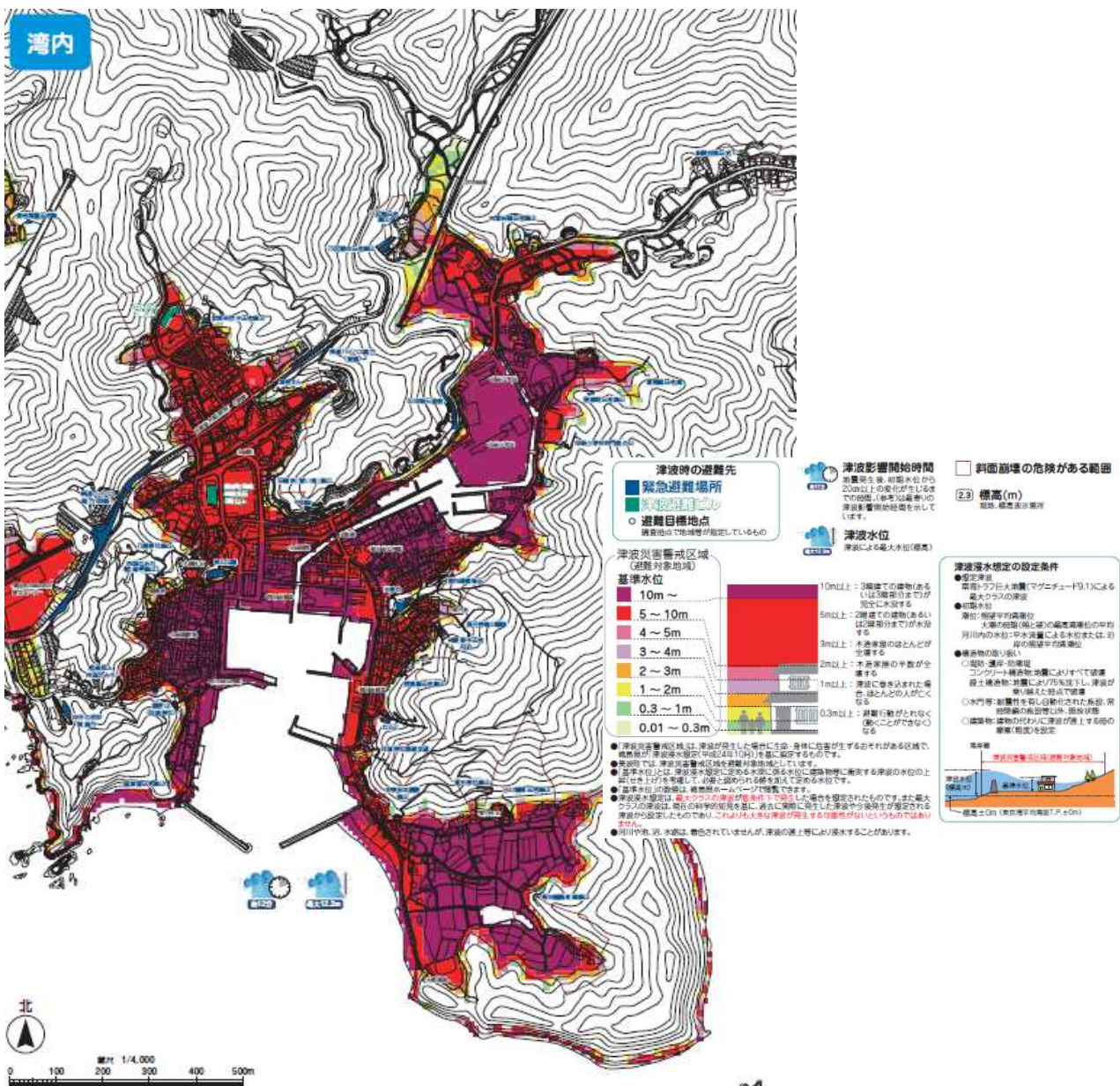
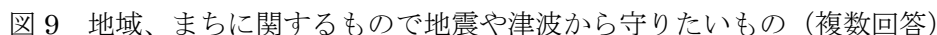
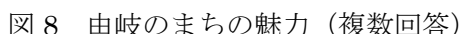


図 7 由岐湾内地区の想定津波浸水深
 （出典：『美波町津波避難支援マップ』（美波町））

(1) 住民ヒアリング調査

その結果、由岐湾内地区のまちの魅力として、「人間関係」、「自然環境」、「暮らし」、「子育て・教育」の分野に関することを抽出することができました。また、地域、まちに関するもので地震や津波から守りたいものとして、「地域の人の命」や「伝統・文化」に関することを抽出することができました。



(2) 地域継承について考えるワークショップ

ヒアリング調査中、住民の方々からは「これまでじっくり考えたいことがないので、直ぐに出てこない。」「ずっとここに住んでいるので、地元の者には当たり前過ぎて気付かない」といった意見も多くありました。

そこで地域の魅力や課題から地域継承すべきものについて「じっくり考える」機会を設けるために、由岐湾内3地区自主防災会連合会内に20代～70代の男女17名から成る「ごっつい由岐の未来づくりプロジェクトチーム」(以下、「ごっついPJチーム」)を設立し、美波町、徳島県、徳島大学等の協力のもと、2014年に計3回(2014年8月29日、9月26日、10月31日)にわたって「地域継承について考えるワークショップ」を開催しました。

「ごっつい由岐のPJチーム」のメンバーでも地域継承したいものを急に挙げていくことは難しかったため、はじめに「地域の昔良かったことは？」について年配者から若者に教えてもらう方式を取ったところ、年配者から生き生きとした意見が沢山挙げられました。次に、皆で「地域の今はどう?」、「変化した理由は?」について話し合い、その後、「地域の今良いところは?」について今度は若者から年配者に教えてもらいました。

その結果、昔から今に受け継がれ、次世代にも継承したい重要なキーワードとして、「海・山」、「豊かな自然環境」、「家族・3世代」、「子ども・学校」、「近所付き合い・コミュニティ」、「商業・産業・漁師町」、「地域行事・伝統行事・祭り」等に関することを抽出することができました。



図10 「地域継承について考えるワークショップ」の意見

ごっつい由岐の未来づくりプロジェクトチーム 「次世代に継承したいものを考えるワークショップ」				第1回／平成26年 8月29日(金)	参加者 北山、酒井、花本、川尻、尾崎、澤村、都、池田、松越、浜、井若	①
				第2回／平成26年 9月26日(金)	参加者 北山、浜野、谷澤、川西、酒井、喜井、花本、都、池田、松越、浜、井若	
				第3回／平成26年10月31日(金)	参加者 北山、谷澤、酒井、喜井、花本、尾崎、都、池田、松越、浜、井若	
				自然・環境		
				人間関係		
				海		
				山		
				環境		
				家族		
				子ども		
				近所		
昔は良かった				3世代が同居していた	各家庭でお餅つきを行っていた	子ども会等がいろいろあった
なぜ変化した				仕事で市内にいない	親戚一族の集まる機会が減った	子どもが安心して暮らせる環境がなくなった
今はどう				コングリートで通っている人が増えた	子どもが少なくなった	子どもが少なくなった
魅力特徴				海がきれい	山がきれい	環境がきれい
次世代継承				山がきれい	山がきれい	山がきれい

ごっつい由岐の未来づくりプロジェクトチーム 「次世代に継承したいもの考えるワークショップ」				第1回／平成26年 8月29日(金)	参加者 北山、酒井、花本、川尻、尾崎、澤村、都、池田、松越、浜、井若	②
				第2回／平成26年 9月26日(金)	参加者 北山、浜野、谷澤、川西、酒井、喜井、花本、都、池田、松越、浜、井若	
				第3回／平成26年10月31日(金)	参加者 北山、谷澤、酒井、喜井、花本、尾崎、都、池田、松越、浜、井若	
				商業・産業		
				地域行事・伝統行事		
				祭り		
昔は良かった				映画館が由岐にあった	映画館が由岐にあった	映画館が由岐にあった
なぜ変化した				テレビが普及してきて、娯楽施設がなくなった	交通の便が良くなって、娯楽施設がなくなった	娯楽施設がなくなった
今はどう				市内に娯楽施設がなくなった	市内に娯楽施設がなくなった	市内に娯楽施設がなくなった
魅力特徴				映画、駅、商店、郵便局、銀行、病院等が揃っている	映画、駅、商店、郵便局、銀行、病院等が揃っている	映画、駅、商店、郵便局、銀行、病院等が揃っている
次世代継承				映画、駅、商店、郵便局、銀行、病院等が揃っている	映画、駅、商店、郵便局、銀行、病院等が揃っている	映画、駅、商店、郵便局、銀行、病院等が揃っている

図 11 「地域継承について考えるワークショップ」の意見のまとめ

(3) 若者によるフォトコンテスト

次に、「当たり前に気付く」機会を設けるために、当地区で受入を行ったインターン生が所属する徳島県内の大学生からなる東北復興支援サークル「きっかけバス徳島」と地元の由岐青年会とが参加者となり、若者が町歩きをしながら内と外の目で由岐湾内地区の良いところや次世代に継承すべきコトやモノを写真に収めて地域を再発見するフォトコンテスト「A day in the life of Minami」（2014 年 11 月 24 日）に開催しました。

2014 年 11 月 30 日には、「ごっつい PJ チーム」が徳島大学協力のもとで開催したタウンミーティングの中で、若者によるフォトコンテストの発表と参加者による人気投票を行いました。若者からは、「風景・街並」「漁港・魚の競り」「伊勢エビ・干物の天日干し」「学校・子どもの頃よく遊んだ場所」「津波避難場所・津波碑」等の写真が発表され、人気投票の結果、最も投票数が多かった「魚のセリ」と「干物の天日干し」でした。



写真 8 フォトコンテスト
「A day in the life of Minami」



写真 9 「平成 27 年度徳島大学タウンミーティング」フォトコンテストの発表



写真 10 水産物共同荷捌所での魚の競り



写真 11 干物の天日干し

(4) 由岐湾内地区の地域継承

以上の結果を踏まえて、由岐湾内地区における地域継承の要素を「①自然環境」、「②人間関係」、「③地域愛」、「④暮らし」、「⑤子育て・教育」、「⑥心身・健康」の6分野に分けて整理しました。

表 2 由岐湾内地区の地域継承の要素

	分野	項目	
①	自然環境	自然	海と山の両方がある(里海里山)
			自然遊び・アウトドア
			きれいな海(田井ノ浜)
		環境	きれいな景色・今に近い風景
			豊かな自然環境(星・空気・水・気候)
②	人間関係	家族	家族の命
			近居による助け合い
			3世代が住みやすい
		近所	地域の人の命
			隣組
			近所付き合い・コミュニティ
			地域の絆・世代間のつながり
	地域貢献・世話・協力してくれる人		
	元気なお年寄り・お年寄りの憩いの場		
③	地域愛	地域愛	地域への愛着・誇り
			地域活動への参加
		地域行事	運動会・体育行事
		伝統行事	神社・仏閣
			祭り・神輿
		文化財	由岐の方言
歴史的な石碑			
④	暮らし	まち	まちがコンパクト(主要施設が歩いて行ける)
			公共施設(役場, 公民館)
			日常生活に必要な施設(商店, 郵便局, 銀行)
			皆で避難生活を過ごせる場所(避難所)
		生業	一次産業
			漁師町
	新鮮で美味しい魚介類		
⑤	子育て 教育	子育て	子どもの命
			子どもの声が聞こえる
			子どもが増えて欲しい
		教育	由岐地区の保育園
	由岐地区の小・中学校		
⑥	心身健康	身体的健康	病院
			福祉施設

2. 5 由岐湾内地区の地域幸福

(1) 住民アンケート調査

2014年に、由岐湾内3地区自主防災会連合会で徳島大学上月研究室協力のもと、住民ヒアリング調査を実施した住民（150人中120人から回答）を対象に、既往の幸福度指標や地域性を考慮して、生活満足度に関する8つの分野から成る合計38個の質問項目や11段階から成る主観的幸福感の質問項目等から成るアンケート調査を行いました。

その結果、由岐湾内地区の住民の「現在の主観的幸福感」は7.2点であり、全国平均よりも0.6点も高く、比較的幸せに暮らしていることがわかりました。その一方で、「5年後の主観的幸福感」の予想は「現在の主観的幸福感」より0.6点も低く、また、全国平均よりも0.6点低かったことから、未来を悲観的に考えている課題があることがわかりました。

次に、由岐湾内地区の生活満足度のトップ10とワースト10の項目を見ると、トップ10からは、「地域・伝統の分野」に関する「祭りや伝統行事が受け継がれている程度」（2位）、「地域への愛着や誇りの程度」（6位）、「地域に今後も住み続けたいという思いの程度」（7位）、「地域の近所付き合いや人間関係への満足度」（8位）、「地域行事が活発に行われている程度」（9位）や「安全・安心の分野」に関する「地域の治安に対する満足度」（1位）、「地震や津波などへの自主防災会の活動に対する満足度」（4位）、「食の安全が確保されている程度」（5位）への満足度が高いことがわかりました。

一方、ワースト10からは、「仕事の分野」に関する「地域の産業の盛んである程度」（1位）、「道路の整備状況や交通機関の利便性に対する満足度」（6位）や「生活の分野」に関する「地域での買い物の利便性に対する満足度」（2位）、「世帯の資産や貯えに対する満足度」（3位）「世帯の収入に対する満足度」（8位）への満足度が低いことがわかりました。

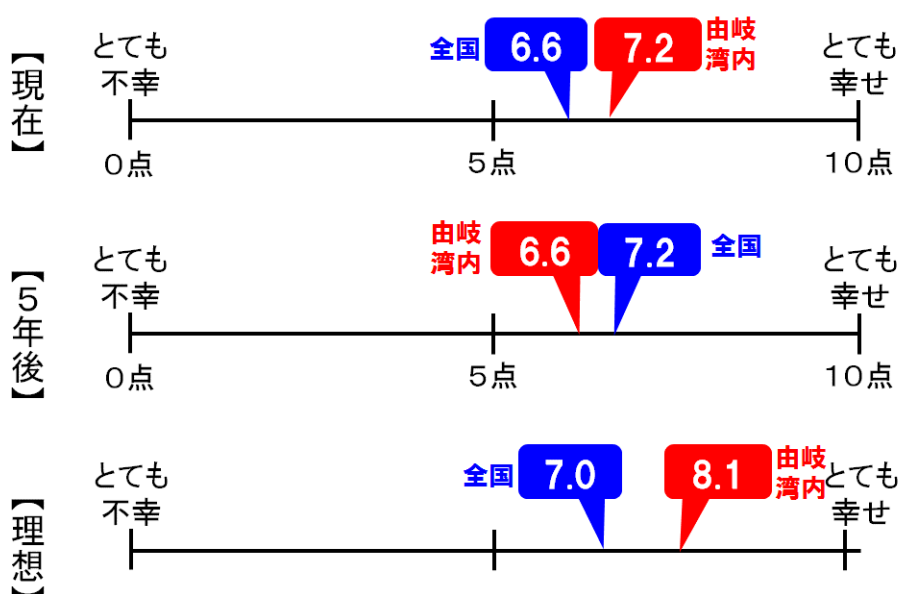


図 12 由岐湾内地区住民の主観的幸福感（現在、5年後、理想）

表 3 由岐湾内地区の生活満足度のトップ 10 項目（5 点満点）

	項目	平均点
1	地域の治安に対する満足度	4.01
2	祭りなど伝統行事が受け継がれている程度	3.87
3	家族関係に対する満足度	3.82
4	地震や津波などへの自主防災会の活動に対する満足度	3.81
5	食の安全が確保されている程度	3.74
6	地域への愛着や誇りの程度	3.61
7	地域に今後も住み続けたいという思いの程度	3.59
8	地域の近所付き合いや人間関係への満足度	3.57
9	地域行事が活発に行われている程度	3.53
10	地域の自然や環境の状態に対する満足度	3.52

表 4 由岐湾内地区の生活満足度のワースト 10 項目（5 点満点）

	項目	平均点
1	地域の産業の盛んである程度	2.15
2	地域での買い物の利便性に対する満足度	2.50
3	世帯の資産や蓄えに対する満足度	2.79
4	地域が将来も残り続けると思っている程度	2.81
5	地域での医療についての満足度	2.85
6	道路の整備状況や交通機関の利便性に対する満足度	2.87
7	地域内で、生涯学習を行う状況に対する満足度	2.92
8	世帯の収入に対する満足度	2.97
9	世代を越えた交流の程度	3.01
10	地域の行政に対する満足度	3.03

(2) 由岐湾内地区の地域幸福

アンケート調査結果を用いて、因子分析により 38 の質問項目から因子を抽出（最小 2 乗法、バリマックス回転法）し、計算された因子得点を独立変数として入力し、順序回帰分析を行いました。その結果、由岐湾内地区の住民の幸福感は、「地域への愛着」、「定住志向」、「自然環境に配慮した生活」、「地域活動への参加」から成る「地域愛」、「生活水準（消費生活）」、「世帯の収入」、「世帯の資産や蓄え」から成る「家計」、「肉体的健康」「精神的健康」から成る「心身健康」といった 3 つの因子からの強い影響を受けていることがわかりました。

以上の結果を踏まえて、由岐湾内地区における地域幸福の要素を「①自然環境」、「③地域愛」、「④暮らし」、「⑥心身・健康」の 4 分野に分けて整理しました。

表 5 由岐湾内地区の地域継承の要素

	分野	項目	
①	自然環境	環境	地球環境に配慮した生活
③	地域愛	地域愛	地域への愛着・誇り
			地域活動への参加
④	暮らし	まち	定住意志
		家計	生活水準(消費生活)
			世帯の収入
			世帯の資産や蓄え
⑥	心身健康	身体的健康	病気
			ケガ
		精神的健康	ストレス
			悩み

2. 5 由岐湾内地区の住民意向

(1) 美波町アンケート調査

美波町では徳島大学協力のもと、平成 26 年 11 月に、町内の全世帯を対象に、地震発生から復興までの対応に関する町民の意向を把握し、事前復興まちづくりに関する検討を進めるための基礎資料とするためのアンケート調査を実施しています（配布数約 2,905 戸、有効回収数 2,391 票（回収率約 81%））。

アンケート調査結果の内、由岐湾内地区の結果を見ると、まず「1 次避難期（災害から一時的に命を守る）」では、77%の人が「避難する」と回答しています。一方で、「避難したいが、家族の中に避難することが困難な者がいて避難できない」、「避難したいが、自宅の周辺に安全な避難場所がない」、「あきらめているので避難しない」が合わせて約 1 割おり、地震・津波からの避難に課題を抱えている者もいます。

次に、「2 次避難期（命を守った後の避難生活）」では、「地区内」は約 31%しかいませんでした。「町内（地区外）」も約 9%いましたが、「町外」（約 13%）と「わからない」（約 44%）の割合が多く、これらの要因には地区内に避難生活を過ごすための適当な施設がないことが考えられます。

「応急住宅期（新居確保までの仮住まい）の意向」でも、「地区内」は約 27%しかいませんでした。「町内（地区外）」も約 7%いましたが、「町外」（約 14%）と「わからない」（約 47%）の方が、割合が多くなっています。

「住宅再建期（新居確保とまちの再建）の意向」では、平成 26 年 11 月現在で「地区内」で再建を希望している人は約 34%しかおらず、「町内（地区外）」は約 9%、「町外」は約 10%、「わからない」43%で最も割合が多くなっています。

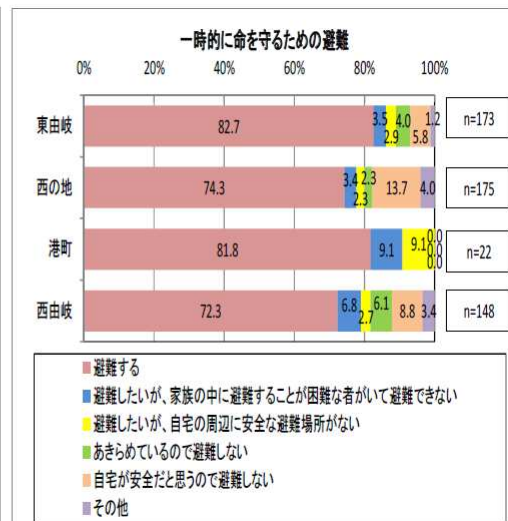
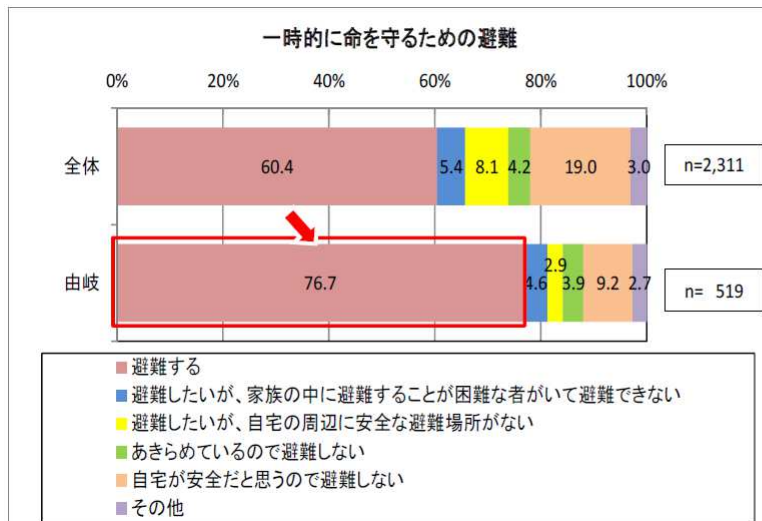


図 13 1次避難期（災害から一時的に命を守る）の意向

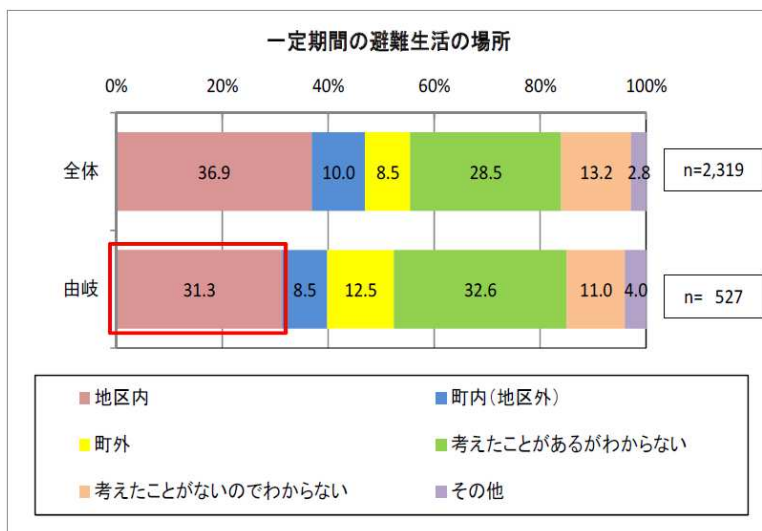


図 14 2次避難期（命を守った後の避難生活）の意向

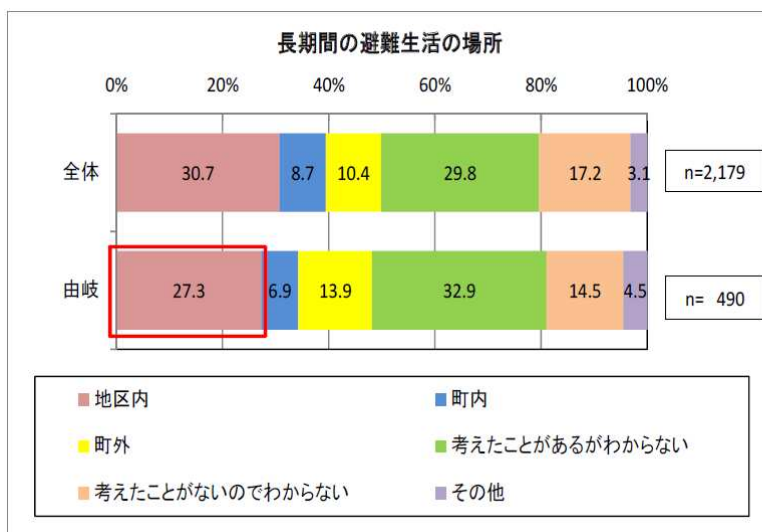
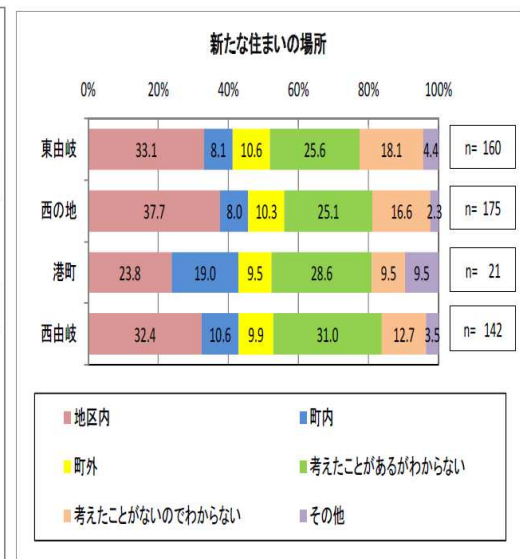
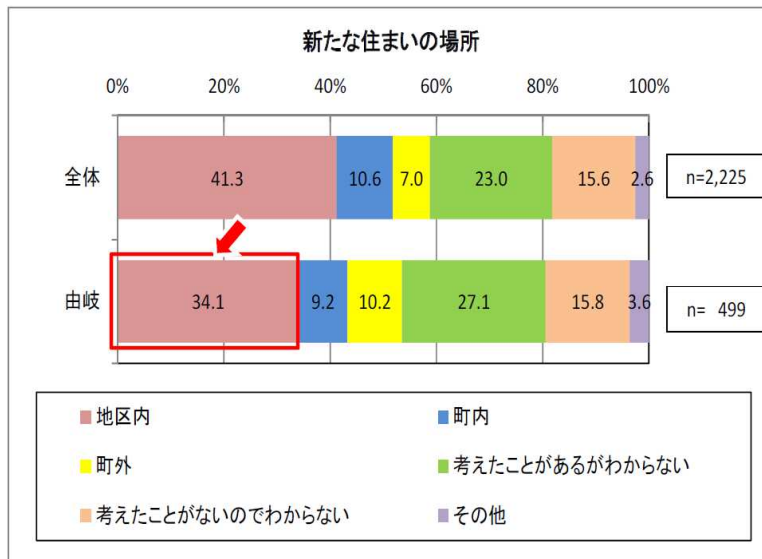
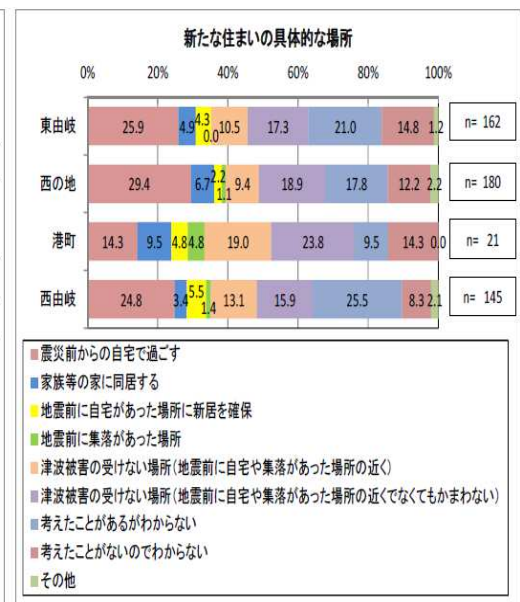
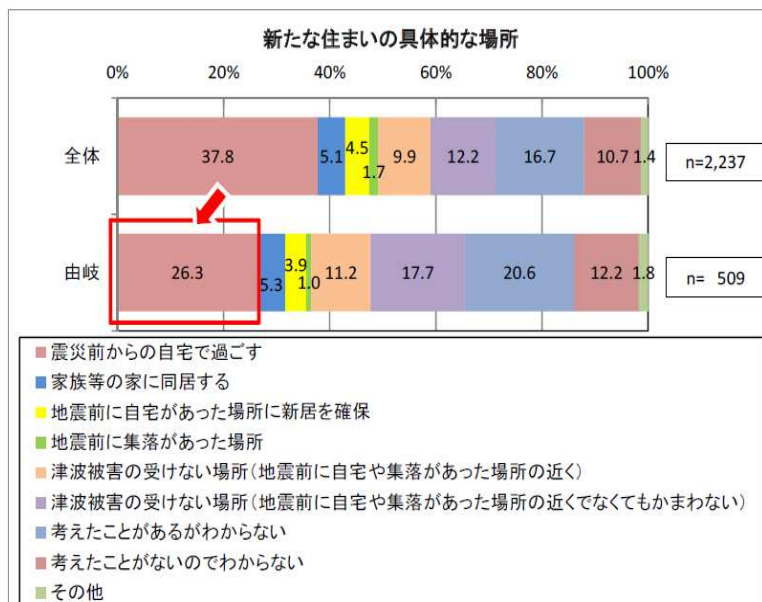


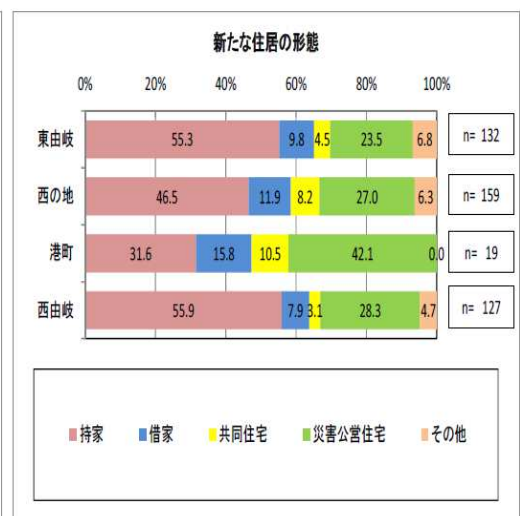
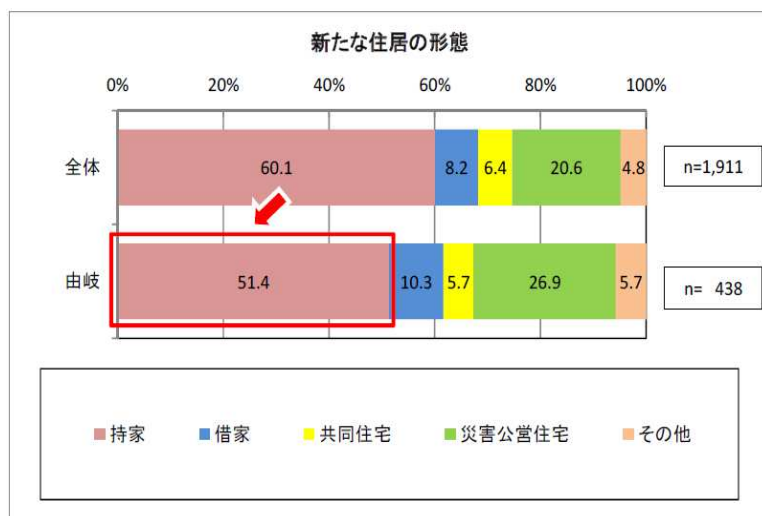
図 15 応急住宅期（新居確保までの仮住まい）の意向



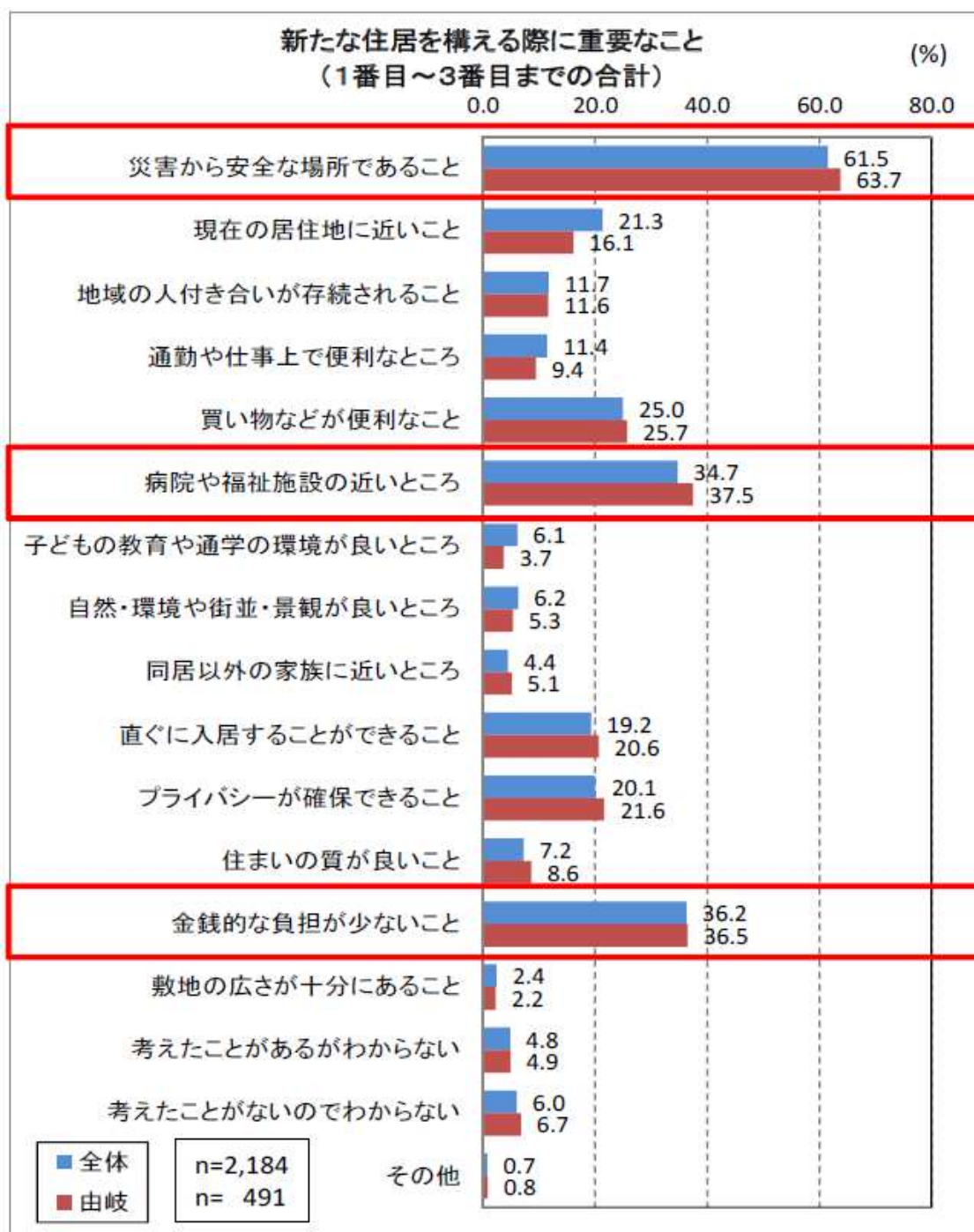
a) 新たな住まいの場所



b) 新たな住まいの具体的な場所



c) 新たな住まいの形態



d) 新たな住まいを構える際に重要なこと

図 16 住宅再建期（新居確保とまちの再建）の意向

第2部 基本構想

1. ごっつい由岐の未来像

1. 1 基本理念

30年後の由岐湾内地区の未来像を考えるにあたり、人口減少、少子高齢化、過疎化、主幹産業不振の進行といった〔社会リスク〕と南海トラフの巨大地震・津波の発生といった〔自然災害リスク〕の両方を前提として受け止めます。

その上で、先人から受け継いできたこの由岐湾内地区で幸せに生き続け、次世代に地域を継承するために、事前復興まちづくりの基本理念を、以下のとおり定め、事前復興まちづくりのすべての分野における基本的な考え方とします。

(0) 住民主体

「自分達でできることは自分達でする」をモットーに、住民が主体となり事前復興まちづくりを進めます。

(1) まちづくり

人口減少・少子高齢化・過疎化を前提にし、その中でも地域住民の幸福感を高めつつ、地域を次世代にも継承させるまちづくりを進めます。

(2) 防災・減災

南海トラフ巨大地震・津波の発生を前提にし、いつ地震・津波が発生しても地域住民の全員が生き残り、かつ、個人や地域の被害も最小限に留める防災・減災を進めます。

(3) 縮災・復興

南海トラフ巨大地震・津波の発生を前提にし、震災を理想のまちを実現するチャンスとして、事前に策定しておいた計画を基に2年以内の縮災・復興を進めます。

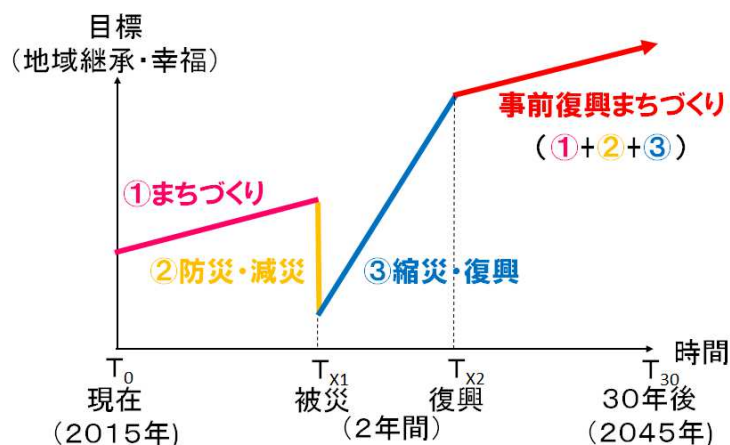


図 17 事前復興まちづくりの基本理念

1. 2 未来像

未来像は、由岐湾内地区が30年後に目指す姿を示すものであり、事前復興まちづくりの象徴となるものです。

由岐湾内地区の個性や住民の想い、時代の潮流と由岐湾内地区における課題、そして基本理念を総合的に勘案し、目指す将来像を以下のとおり定めます。

**『個人の幸福だけでなく、
地域全体で幸福を共有しながら、
次世代にわたって幸福に
住み続けられるまち由岐』**



1. 3 分野別の方針

(1) 自然環境

海と山の両方に囲まれた地域で、豊かな自然環境の恵みを享受し続けるために、自然、景観、地球環境に配慮した生活を過ごします。

(2) 人間関係

世帯ではなく家族を基本に、近所付き合いや世代間のつながりも大切にし、地域の絆を高めて良好な人間関係を保ちます。

(3) 地域愛

住民みんなが地域への愛着・誇りを持ち、地域行事や伝統行事、文化財を守ります。

(4) 暮らし

地域への定住意志を持ち続け、現在のコンパクトなまちと漁師町としての生業、家計の暮らしを守ります。

(5) 子育て教育

地域内に子どもの声が聞こえ続けるように、こども園、小・中学校を地域で残し、地域ぐるみで子育て・教育を行います。

(6) 心身健康

高齢になっても生きがいを持ち、イキイキと生活できるように、心身ともに健康な生活を過ごします。

1. 4 土地利用の基本方針

東日本大震災の教訓と復興まちづくりに学び、レベル 1 津波に対しては防災、レベル 2 津波に対しては減災の考えに基づき津波対策を進めます。また、高台移転・集住分離と多重防御の両方を組み合わせた土地利用を進めます。

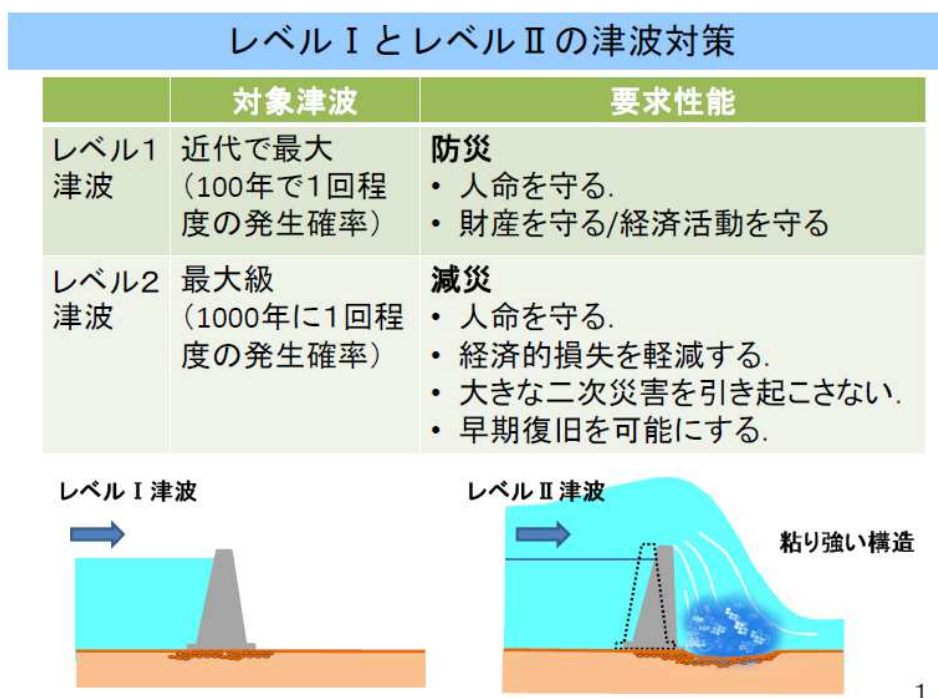


図 18 東日本大震災以降の津波対策の考え方

(出典：東北地方太平洋沖地震を教訓とした地震・津波対策に関する専門調査会)

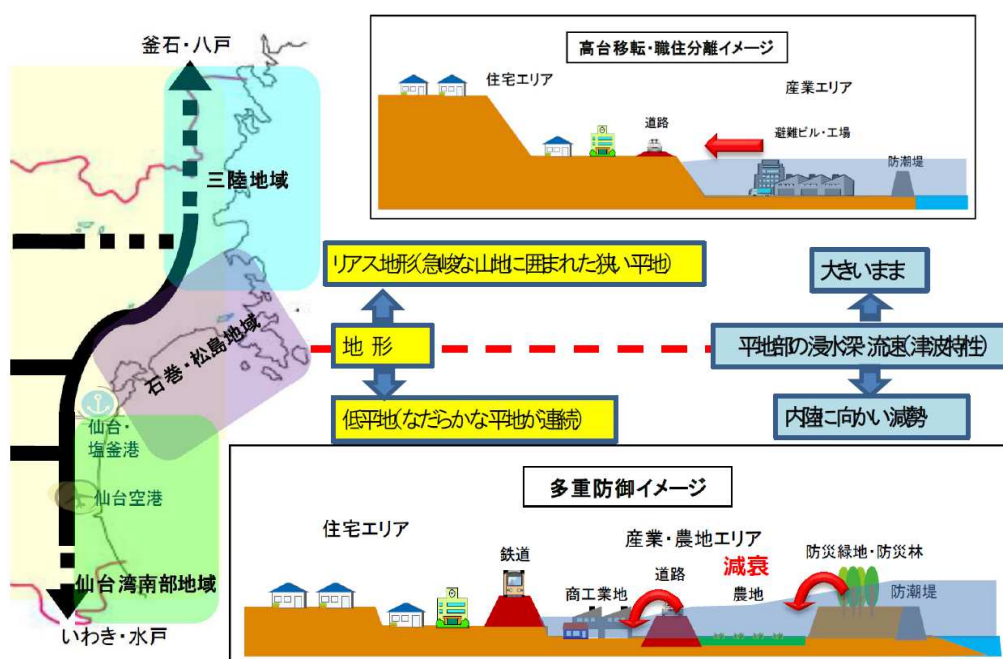
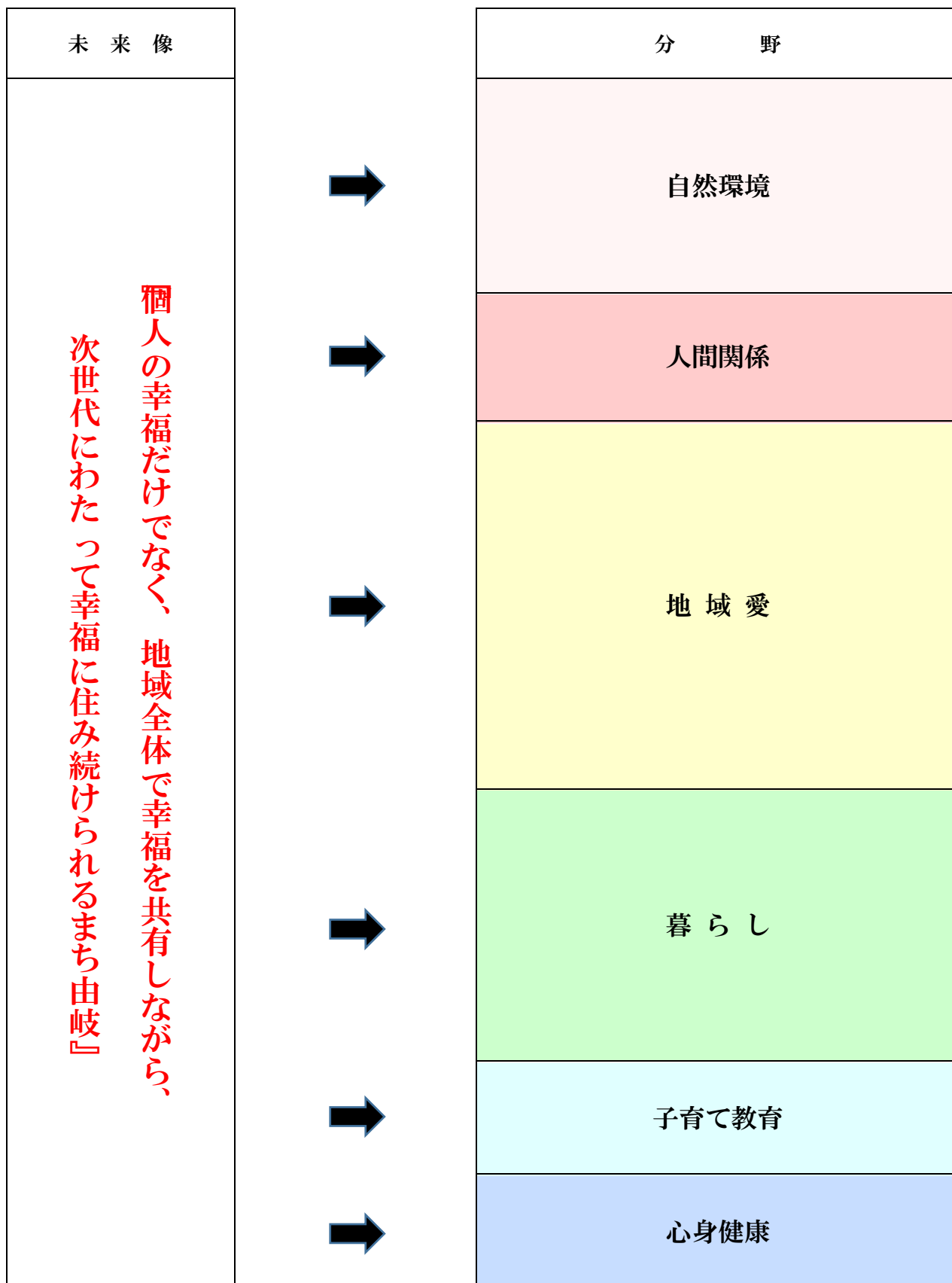


図 19 宮城県沿岸部における東日本大震災からの復興計画の土地利用イメージ

第3部 基本計画

1. ごっつい由岐の未来を実現するための施策

分野別施策の体系図



方 針	① まちづくり
海と山の両方に囲まれた地域で、豊かな自然環境（星・空気・水・気候）の恵みを享受し続けるために、自然、景観、地球環境に配慮した生活を営みます。	施策 1 磯遊び・アウトドア・ビーチコーミングの開催 施策 2 筥野島の活用（大阪モード学園との連携） 施策 3 田井ノ浜・新ねんりん屋上での星空観察 施策 4 坂の浜・田井ノ浜での遊山の復活 施策 5 葦原池の釣堀化 施策 6 都会と違う田舎の豊かな自然環境の発信 施策 7 くるくるショップ（リサイクル・ハンドメイド）の整備 施策 8 自然、景観、地球環境に配慮した生活
世帯ではなく家族を基本に、近所付き合いや世代間のつながりも大切にし、地域の絆を高めて良好な人間関係を保ちます。	施策 9 町内あいさつ運動、オアシス運動 施策 10 いつでも住民同士が触れ合える場所の整備 施策 11 同窓会の推奨（補助制度の創設） 施策 12 独居老人の見守りの強化
住民みんなが地域への愛着・誇りを持ち、地域行事（運動会・体育行事等）や伝統行事（神社・仏閣・祭り等）、文化財（歴史的な石碑等）を守ります。	施策 13 由岐の魅力・宝の再発見 施策 14 ふるさと自慢のPV制作 施策 15 由岐の変遷写真展の開催 施策 16 由岐の四季折々のビューポイント写真展の開催 施策 17 由岐湾内地区の共楽運動会の開催 施策 18 町民共楽運動会への国籍を超えた参加 施策 19 秋祭りに3地区のだんじりを港に寄せ、踊りや演奏の実施 施策 20 祭りの歌の録音保存 施策 21 『由岐の昔話』の再出版 施策 22 由岐に残る歴史・文化の再整理 施策 23 ミニ四国88カ所、ミニ西国33ヶ所の保存 施策 24 津波碑のPR 施策 25 ミニ四国・ミニ西国・津波碑を巡るウォークラリーの開催
地域への定住意志を持ち続け、現在のコンパクトなまちと漁師町としての生業、家計と暮らしを守ります。	施策 26 田畑を活用した食材をまったりカフェみなみで提供 施策 27 休耕田にひまわりや菜の花を植えて観光名所化 施策 28 由岐病院跡を海に見えるイベント広場に整備・朝市の開催 施策 29 養殖の開拓 施策 30 外国人雇用の受入 施策 31 地産地消の推進 施策 32 昔の料理づくりや美味しい食べ方のイベントの開催 施策 33 由岐のお土産の開発
地域内に子どもの声が聞こえ続けるよう、こども園、小・中学校を地域で残し、地域ぐるみで子育て・教育を行います。	施策 34 子どもが気軽に集える場所の整備 施策 35 地域と学校との繋がり強化 施策 36 地域の人と自然を活用した地域学習プログラムの開発
高齢になっても生きがいを持ち、イキイキと生活できるように、心身ともに健康な生活を送ります。	施策 37 散歩モデルコースマップの作成 施策 38 歩け歩け対策の復活 施策 39 老人ホームのPR 施策 40 各公民館サロンの継続 施策 41 グラウンドゴルフの継続

② 防災・減災	③ 縮災・復興
施策1 配水池を高台に設置	施策1 地域住民と外部ボランティアによる清掃活動 施策2 きれいな景観・今に近い景観に配慮した復興まちづくり 施策3 自然保全と人工開発のバランスを考慮した復興まちづくり 施策4 地球環境に配慮した避難生活
施策2 高台住宅・住宅地の整備 施策3 地域住民全員が助かるための避難計画・訓練 施策4 日頃から近所付き合いを大切にする 施策5 若い世代を大切にする	施策5 隣組・近所でまとまった避難生活 施策6 挨拶・声掛け等により皆で支え合う避難生活 施策7 元気な者が高齢者等の憩いの場の整備 施策8 3世代が集まって住む復興住宅の整備 施策9 高台住宅団地の名称をあらかじめ決めておく
施策6 文化財の保存	施策10 復興まちづくりに主体的に携わる 施策11 運動会・体育行事のための人・物・場所の確保 施策12 神社・仏閣の再建までの間、残った神社・仏閣を3地区が共同で使用 施策13 津波碑の再建、新設
施策7 地震保険の加入・家計の備え	施策14 現在のコンパクトなまちに配慮した復興まちづくり 施策15 公共施設の集約化 施策16 商業が成り立つ程の人口確保と地元購買の促進 施策17 谷裏にこども園、小・中一貫校の整備（災害時には避難所として活用） 施策18 支所、漁協、農協、商店等のBCPの策定 施策19 田畑の塩害対策 施策20 漁港・漁協・漁船・漁具の早期復旧 施策21 復旧・復興事業での地域内雇用の創出
施策8 子どもと親世代も参加する避難訓練 施策9 学校やPTAと連携した防災教育	施策22 学校教育の早期再開
施策10 ケガ人の対処方法の決定	施策23 高台に移転した美波病院・ねんりん新施設の避難所活用 施策24 避難生活中の高齢者の運動と見守り 施策25 外部ボランティアとの交流

2. ごっつい由岐の未来を実現するための土地利用

分野別・時系列土地利用の体系図

(1) 1次避難期（災害から一時的に命を守る）

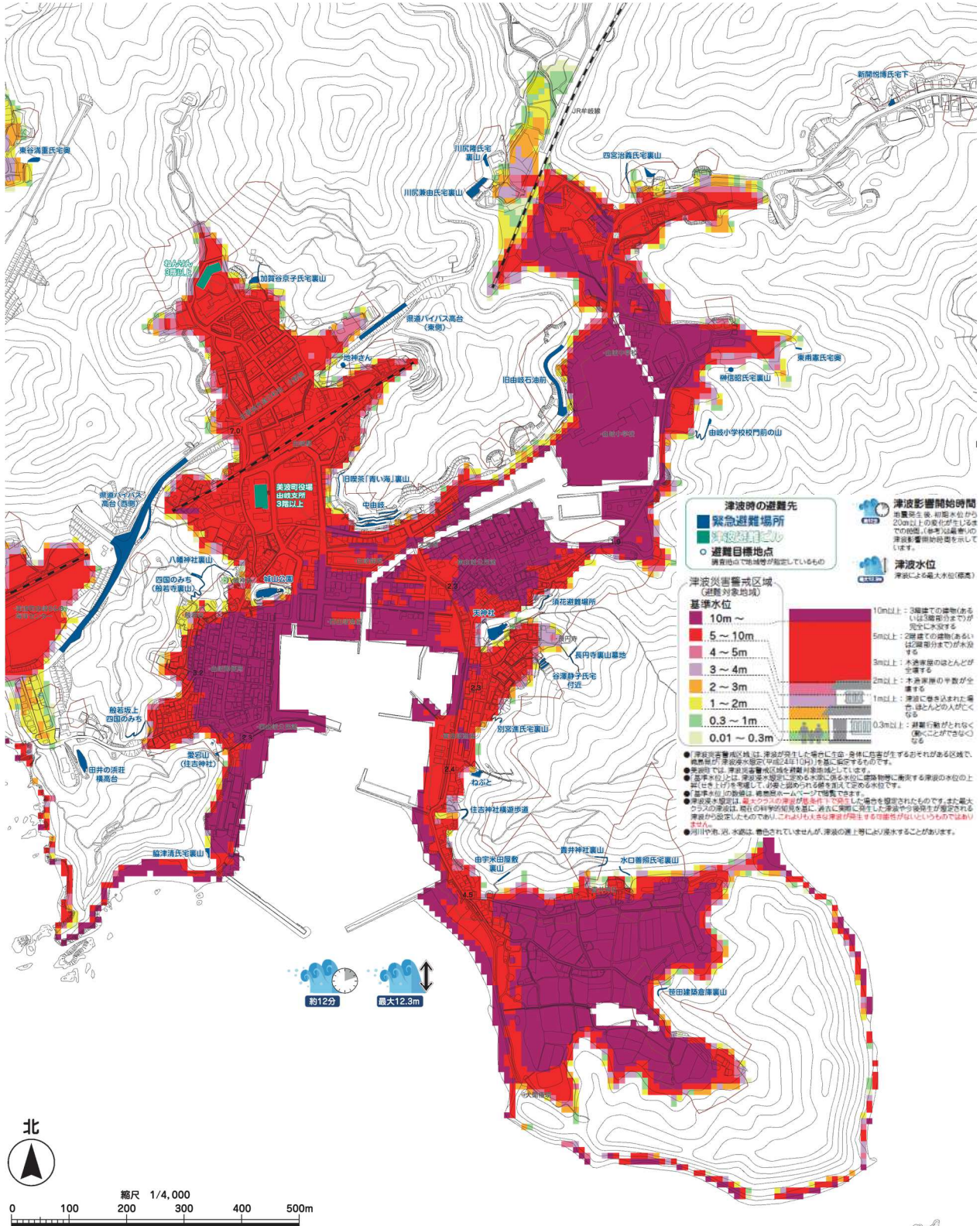
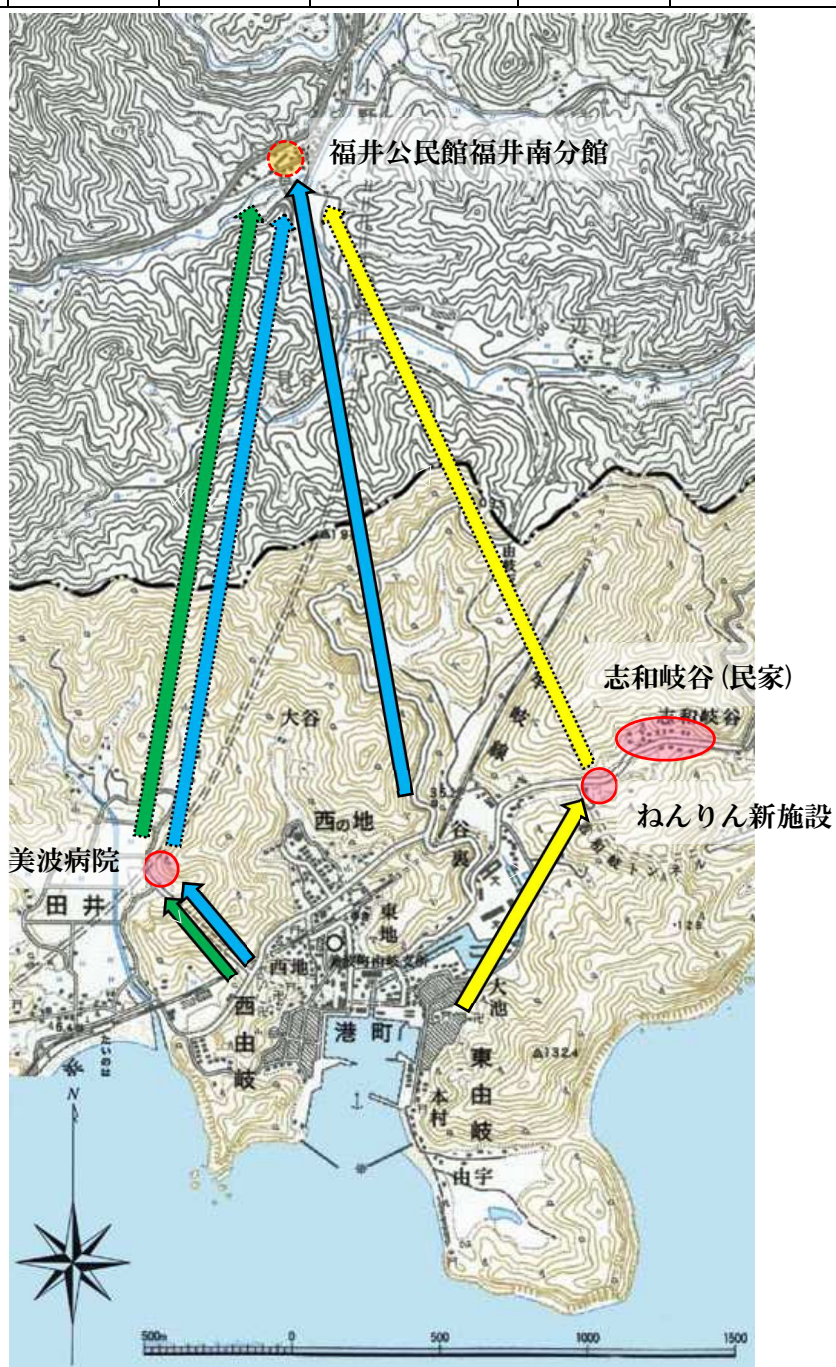


表 6 由岐湾内地区の指定緊急避難場所一覧（出典：『美波町地域防災計画』）

番号	地区名	名 称	収容人員 (人)	地区の人口 (人)	備 考
1	東由岐	由岐小学校門前の山	80	431	
2		須花避難場所	26		
3		天神社	238		
4		長円寺裏山墓地	16		
5		谷澤静子氏宅付近	55		
6		別宮進氏宅裏山	9		
7		住吉神社横遊歩道	7		
8		由宇米田屋敷裏山	14		
9		貴井神社裏山	34		
10		水口善照氏宅裏山	27		
11		笹田建築倉庫裏山	18		
12		ねぶと	60		
13	西の地	新開悦博氏宅下	42	586	
14		四宮治義氏宅裏山	162		
15		川尻隆氏宅裏山	13		
16		川尻兼由氏宅裏山	91		
17		東甫憲氏宅奥	16		
18		榊信昭氏宅裏山	17		
19		旧由岐石油前	525		
20		中由岐	124		
21		旧喫茶「青い海」裏山	15		
22		地神さん	36		
23		県道バイパス高台（東側）	350		
24		加賀谷京子氏宅裏山	72		
25		県道バイパス高台（西側）	2,729		
26		ねんりん3階以上	407		
27		美波町役場由岐支所3階以上	494		
28	西由岐	城山公園	150	296	
29		八幡神社裏山	42		
30		四国の道（般若寺裏山）	83		
31		田井の浜荘横高台	249		
32		般若坂上四国のみち	40		
33		愛宕山（住吉神社）	20		
34		脇津清氏宅裏山	40		
合 計			6,301	1,313	

(2) 2次避難期 (命を守った後の避難生活)

地区名	志和岐谷 (民家)	美波病院 (1週間)	ねんりん 新施設 (1カ月)	福井公民館 福井南分館	家族・友人・親戚宅 に疎開	その他 (高台住宅地) (事前復興基地) (幼小中一貫校)	地区の 人口 (人)
東由岐	△	△	○	○	○	—	431
西の地	○	○	△	○	○	—	586
西由岐	△	○	△	○	○	—	296
合 計	50 人	200 人	200 人	(200+α 人)	(200 人)	(463 人)	1,313



(3) 応急住宅期（新居確保までの仮住まい）

地区名	志和岐谷 (民家)	新開氏宅 横の田	県道 25 号 遍路小屋	家族・友人・ 親戚宅に疎開	その他 (美波町内) (阿南市福井町内)	地区の 人口 (人)
東由岐	△	?	?	○	—	431
西の地	○	?	?	○	—	586
西由岐	△	?	?	○	—	296
合 計	50 人	50 人	50 人	(200 人)	(963 人)	1, 313



(4) 住宅再建期（新居確保とまちの再建）

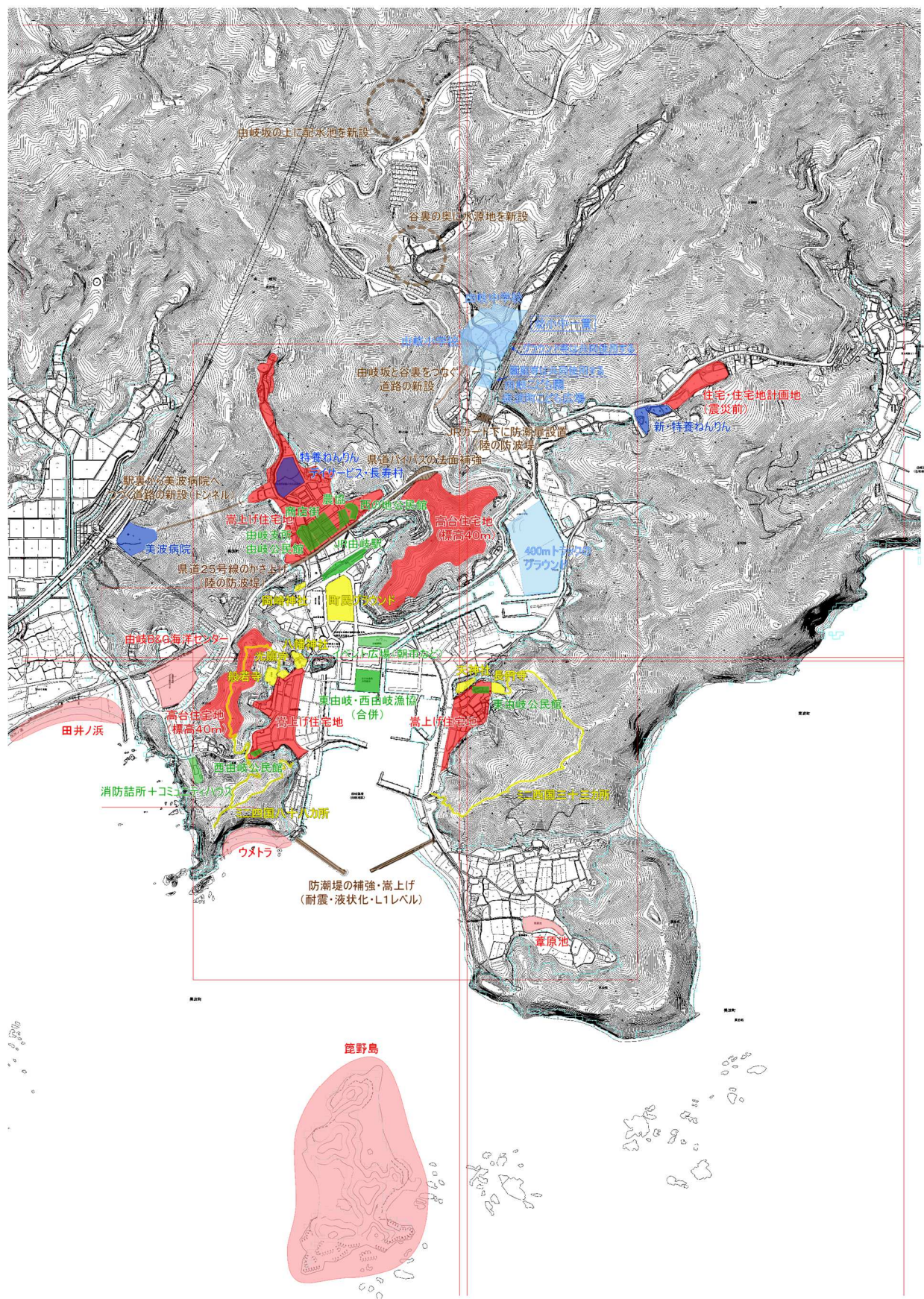


表 7 由岐湾内地区の土地利用計画一覧

分野	土 地 利 用
インフラ整備	1 沖防波堤の補強・かさ上げ（耐震化、液状化対策、L1レベル津波に対応） 2 県道25号線のかさ上げ（陸の防波堤・2線堤化） 3 谷裏JRガード下に防潮扉設置（陸の防波堤・2線堤化） 4 由岐坂と谷裏をつなぐ道路の新設（谷裏の土地利用促進） 5 駅裏から美波病院へ続く道路（トンネル）の新設 6 県道バイパスの法面補強 7 谷裏の奥に水源地の新設 8 由岐坂の上に配水池の新設
自然環境	9 筏野島の活用（大阪モード学園との連携） 10 田井ノ浜・新ねりん屋上での星空観察 11 坂の浜・田井ノ浜での遊山の復活 12 葦原池の釣堀化 13 B&G海洋センターの利活用
人間関係	14 高台住宅地の整備（西由岐、中由岐） 15 かさ上げ住宅地の整備（東由岐、西の地県道バイパス北側、西由岐） 16 志和岐谷の高台住宅・住宅地の整備（震災前） 17 住民の憩いの場の維持・整備（公民館、町民グラウンド、コミュニティカフェ）
地 域 愛	18 運動会・体育行事の場の整備（町民グラウンド、由岐小・中学校グラウンド・体育館、B&G海洋センター） 19 神社・仏閣、祭り等の保全（天神社、長円寺、岡崎神社、八幡神社、光願寺、般若寺） 20 歴史的な文化財の保全（津波碑（康暦の碑、貞治の碑、修堤碑）、ミニ四国88カ所、ミニ西国33カ所）
暮 ら し	21 公共施設等（支所、公民館、銀行、郵便局、農協等）や商店街をかさ上げた土地に集約化 22 東由岐漁協と西由岐漁協を合併して早期復旧 23 漁港・漁協・漁場の早期復旧 24 由岐病院跡を海の見えるイベント広場に整備、朝市の開催 25 旧田井ノ浜荘に消防団詰所機能を併せ持つコミュニティハウスの新設
子育て教育	26 谷裏を文教ゾーンとして整備（こども園、小・中一貫校、美波町こども広場の整備（災害時に避難所として活用））※グラウンド等は共同使用 27 現在の由岐小・中学校に400mトラックのグラウンドを整備（陸上の町由岐） 28 現在の由岐小・中学校に子どもが集まる施設を整備
心身健康	29 高台に移転した美波病院・ねりん新施設の避難所活用